

各 位

News Release

「公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団」

令和2年度

地域の伝統文化分野 助成対象先を決定

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団（1991年6月設立・理事長関口憲一）では、地域の伝統文化（民俗芸能および民俗技術）の継承、特に後継者の育成を支援するため、昨年11月から令和2年度『地域の伝統文化保存維持費用助成』制度の助成対象候補を公募してまいりました。このたび応募138件の選考を終えて42件の助成対象を決定し、助成金目録の贈呈を行なうこととなりましたので、ここにお知らせいたします。

なお、本年度の決定を含めた本制度による助成件数の累計は、当財団設立以来1,264件になります。

【お問い合わせ先】

公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団

〒160-0023

東京都新宿区西新宿1-9-1

明治安田生命新宿ビル2階

TEL. 03-3349-6194

FAX. 03-3345-6388

記

1. 公募方法と公募期間

都道府県の教育委員会または知事部局の担当課を推薦窓口とする要推薦制度の公募を、令和元年11月から令和2年1月31日まで行い、138件の申込を受付けた。

2. 助成対象

- (1) 地域の民俗芸能（民俗行事・民俗音楽を含む）の継承、特に後継者育成のための助成。
- (2) 地域の民俗技術（伝統的製作技術・衣食住に関わる生活技術・伝統工芸を含む）の継承、特に後継者育成のための助成。

3. 助成対象者の決定

選考委員会における選考審査（2月25日）を経た後、理事会の承認を得て決定。

【伝統文化分野選考委員】（敬称略）

委員長	小島美子	国立歴史民俗博物館名誉教授
委員	天野武	儀礼文化学会名誉会員
〃	田中宣一	成城大学名誉教授
〃	田村善次郎	武蔵野美術大学名誉教授
〃	西角井正大	国立劇場おきなわ運営財団理事
〃	星野紘	全日本郷土芸能協会理事長
〃	渡辺行信	当財団評議員

4. 助成決定件数・助成金額

(1) 令和2年度 部門区分別 助成決定件数・金額

部門	申込件数	決定件数	助成金額
民俗芸能	133件	39件	1,740万円
民俗技術	5件	3件	110万円
合計	138件	42件	1,850万円

(注) 都道府県別の助成対象および金額等は、3頁～7頁(民俗芸能の部および民俗技術の部)をご参照願います。

(2) [ご参考] 助成件数・金額の推移 (金額単位: 万円)

年度	民俗芸能		民俗技術		合 計	
	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額
平成3年	24	1,717	5	229	29	1,946
4年	29	1,960	5	190	34	2,150
5年	30	1,958	5	200	35	2,158
6年	34	2,060	6	240	40	2,300
7年	38	2,310	5	190	43	2,500
8年	41	2,550	6	250	47	2,800
9年	41	2,670	6	230	47	2,900
10年	43	2,800	4	140	47	2,940
11年	44	2,845	4	155	48	3,000
12年	43	2,740	6	260	49	3,000
13年	42	2,740	8	260	50	3,000
14年	38	2,590	10	410	48	3,000
15年	33	1,590	2	60	35	1,650
16年	31	1,525	5	125	36	1,650
17年	37	1,650	0	0	37	1,650
18年	35	1,666	2	80	37	1,746
19年	37	1,780	2	70	39	1,850
20年	39	1,810	1	40	40	1,850
21年	38	1,740	4	110	42	1,850
22年	39	1,735	3	115	42	1,850
23年	41	1,814	1	36	42	1,850
24年	48	2,122	6	185	54	2,307
25年	40	1,775	2	75	42	1,850
26年	41	1,802	3	98	44	1,900
27年	40	1,746	4	104	44	1,850
28年	41	1,800	2	50	43	1,850
29年	42	1,811	1	39	43	1,850
30年	41	1,775	2	75	43	1,850
令和元年	39	1,736	3	114	42	1,850
2年	39	1,740	3	110	42	1,850
合計	1,148	60,557	116	4,240	1,264	64,797

5. 助成金目録の贈呈

第一次推薦者（市町村教育委員会等）の庁舎、もしくは最寄の明治安田生命支社において贈呈式をおこなう予定。

令和2年度 地域の伝統文化 助成対象

(敬称略)

1. 民俗芸能の部 (民俗行事・民俗音楽を含む)

39件 1,740万円

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
青森県	シカマケラボソカイ 塩釜神楽保存会	50	M15年創始とされる塩釜神楽。塩釜稲荷神社春祭に奉納。山伏系の神楽で約20演目を演ずる。
	塩釜神楽		鶏烏帽子新調費の一部として
岩手県	アサチヨウシホトリボソカイ 青笹町しし踊り保存会	50	江戸中期創始とされる幕踊り系のしし踊り。地区3集落で継承、S40年統合。踊りはししの他、ふくべ・子踊り・中太鼓・刀かけ、3歳から70代まで幅広い世代が演じる。S42年から地元小中校での学習に採用。
	青笹しし踊り		しし頭前幕更新費の一部として
宮城県	シカマケラボソカイ 塩竈神楽保存会	50	660年前の神馬献上記録が残る塩竈神楽。出雲系の「十二神楽」と伊勢系の「太神楽」両演目を継承。獅子舞の演目が多く、かつて北日本を巡業していたことから「太神楽」の流れを汲む。市内で唯一残る神楽。
	塩竈神楽		備品整備費の一部として
秋田県	カミカキョウトゲイノボソカイ 上若郷土芸能保存会	35	江戸末期から始まった豊作踊り。佐竹公が国替した際の道中芸が起源とされる。獅子踊・奴踊・棒遣い・万歳等の複数演目で構成。浅間神社秋祭に2団体が競い合って奉納。
	藤琴豊作踊り		太鼓修理費の一部として
山形県	タルマシタウエトリボソカイ 達磨寺田植踊り保存会	20	江戸前期創始の田植踊。毎年桜の満開に合わせ公園で踊る。2～3年に一度八幡神社盆踊でも披露。S6年保存会結成。陣羽織姿の男衆が頭部に房・金輪が着いた棒「テデ」を振り踊る。8演目を継承。
	達磨寺田植踊り		法被購入費の一部として
茨城県	オナササハラボソカイ 女沼ささら保存会	50	江戸前期に隣の飯積村から伝わった一人立ち三匹獅子舞。一時途絶え、S46年保存会結成し復活。女沼香取神社秋祭に厄除け・五穀豊穰を願い、笛6人・踊り11人で10幕を奉納。市内外の祭でも披露。
	女沼のささら		獅子補修費の一部として
栃木県	オテヤマシラジヤンパクユウシマイト 尾出山神社関白流獅子舞保存会	45	宝永6年(1709)伝播の記録がある関白流獅子舞。一人立三匹の風流系で、棒を先頭に太夫・雄・雌の獅子が雄々しく勇壮に舞う。尾出山神社秋祭に奉納する他、地域イベント等でも披露。3演目を演ずる。
	尾出山神社関白流獅子舞		獅子太鼓張替費の一部として
群馬県	アラシマイトボソカイ 新井獅子舞保存会	50	江戸中期に隣の甘楽秋畑から伝わった鷹盛慶雲流獅子舞。区全戸で戦時中も休まず7演目を継承。大きく速い動作と高く跳ぶ所作が特徴の勇壮な舞。新井諏訪神社秋祭に五穀豊穰・交通安全等を願い奉納。
	新井獅子舞		獅子頭購入費の一部として
埼玉県	カサナカハラボソヨウクシカハラボソ 金鑽神楽本庄組神楽保存会	25	江戸後期から伝わる里神楽。明治初期に武蔵国二宮の金鑽神社を中心に再編された十三神楽組の一つ。出し物は古事記を主に25座あり、全て無言で演ずる。桐製の面を28種保有。市内4神社に奉納。
	金鑽神楽		道具整備費の一部として
千葉県	イノシリンキョウトゲイノボソカイ 家之子獅子連郷土芸能保存会	15	江戸中期創始とされる伊勢系の神楽。お宮神社の七草・秋祭に奉納。大太鼓1・小太鼓1・笛3の囃子に合わせ12座を勇壮活発に舞う。子供も国姓爺合戦に題をとった「鳥指踊り」で参加する。
	大宮山神楽		太鼓整備費の一部として
東京都	オトハヤシボソカイ 大戸囃子保存会	40	江戸末期に伝わった神田流囃子。八雲神社夏祭に奉納。曲目は8曲で、喧嘩囃子から穏やかなリズムの曲まで幅広いのが特徴。コンクール優勝・入賞歴も多い。市主催祭典や近隣の祭礼、施設慰問等でも披露。
	江戸五人囃子		備品購入費の一部として

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
神奈川県	カガミニギョウシハイサトリザ 相模人形芝居 前鳥座	50	江戸中期に前鳥神社祭礼時の奉納奈輿として始まったとされる三人遣いの人形浄瑠璃を継承。大戦前後に中断、S27年有志により再興。鉄砲差しと呼ばれる操法が特徴。毎年四市で活動する5座で公演を実施。
	相模人形芝居		カシラ・衣装新調費の一部として
新潟県	セキヤマシヅメヤカリヤマブシテンシヨウカイ 関山神社仮山伏伝承会	50	江戸初期実施記録があり関山神社夏祭に奉納する棒遣いと柱松行事。6人の「仮山伏」が太刀・薙刀・棒を用い22種の演舞を行う。明治期に入り戸隠神社では絶え、当地のみ継承。神仏習合の色彩を残す。
	関山の仮山伏の棒遣いと柱松		衣装更新費の一部として
富山県	ヒエダテントウバンカボノンカイ 稗田伝統文化保存会	50	M25年創始とされる稗田神社の祭礼。春には獅子舞、秋には神輿を町内に巡行。獅子は氷見型と踊子と獅子と一緒に舞う射水型の両方を持つ。当初は獅子舞、M40年から神輿、S17年からは両方が共存。
	稗田神社春秋祭の獅子舞		衣装更新費の一部として
石川県	チュウオウマチチュウカイ 中央町中思会	50	江戸後期創始の加賀獅子。羽咋神社秋祭で神輿渡御の露払いに祇園囃子を奉納。巨大な獅子のかけの中に太鼓・笛・三味線のお囃子衆が入りテング・棒振り役が太刀・棒・薙刀を持ち演舞する。加賀獅子の北限。
	加賀獅子		獅子頭修復費の一部として
福井県	ミクニマツリバヤシハツカカイ 三国祭囃子 初香会	50	江戸中期創始の三国祭の曳き山車に乗り演奏する囃子方を一手に担当。太鼓は小学生、笛は中学以上が受持ち、6基の山車毎に夫々異なる曲を演奏する。3日間の中日には高さ6.5mの武者人形が巡行する。
	三国祭囃子		道具整備費の一部として
長野県	ナカガヤシセカイ 中萱紫石会	40	「安曇野のお船祭り」(国選択)の一つ。S44年中断、S56年中萱紫石会を設立し復活。熊野神社例祭に昼に屋台・夜にお船の山車を出す。全長3m・高さ9mのお船は県下最大級の大きさ。8曲継承。
	熊野神社のお船祭り		道具整備費の一部として
岐阜県	アホカオオダノイオトリマモルカイ 青墓大太鼓踊りを守る会	50	江戸初期の雨乞踊りが始まりとされる太鼓踊。度々中断、S47年復活、S56年保存会結成し継承。白髭神社秋祭に奉納。直径133cmの大太鼓を体に縛り勇壮に打鳴らし踊る。最古の太鼓は文政2年(1819)の製作。
	青墓大太鼓踊り		締太鼓皮張替費の一部として
愛知県	ミハマチュウコウサイレイ 美浜町 古布区 祭礼	20	江戸後期から伝わる獅子舞。毎年4月に津島神社奉納と地区繁栄を祈願。戦後衰退、S51年保存会結成し復活。獅子舞と共に神輿を担ぎ山車を曳行し囃子を奏で津島神社を往復。6狂言を含め多くの演目を演じる。
	獅子舞・お囃子		笛購入費の一部として
愛知県	オウリアサヒシンバホクバチケイゴマツリホ 尾張旭市印場北部地区警固祭り保存会	50	江戸中期創始とされ尾張、西三河等で広く行われる献馬行事で、豊作お礼や雨乞が起源。飾り馬具をつけた「馬の塔」と東軍流及び直新我流の「棒の手」は夫々市及び県指定文化財。
	尾張旭市の棒の手・馬の塔		馬道具購入費の一部として
三重県	チカカムシオクリボンカイ 立岡虫送り保存会	35	高度成長期で中断した虫送り行事。H25年保存会結成し村行事として復活。6月中旬に営農クラブ・親子会・老人会等が、松明を燃やし鉦・太鼓・法螺貝で囃し水田を回る。村を挙げて環境を守っている。
	虫送り行事		道具購入費の一部として
滋賀県	アサヒホネタイオトリボンカイ 朝日豊年太鼓踊保存会	30	千三百年前に雨乞踊として創始され絶えずに継承。八幡神社秋祭で太鼓踊を奉納。他にはない大鉦の採用や瓢振りが中央を進み奥深さを感じる綾の踊りが特徴。祈りと暮らしの水遺産の一つに認定された。
	朝日豊年太鼓踊		道具整備費の一部として
大阪府	セツシュウガンジリバヤカスラ 摂州地車囃子かずら	50	大阪三大祭の一つ「愛染祭」に参加する地車囃子。江戸中期創始とされる。芸者衆が花街から籠に揺られて動く「宝恵籠」パレードの囃子も行う。大阪の暑い夏の到来を感じる風物詩の一つ。
	地車囃子		道具整備費の一部として

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
和歌山県	ケンコクジンジャシメンボゾノカイ 顯國神社三面保存会	50	獅子頭に1726年の銘が入る獅子舞を継承。暴れ狂う獅子を鼻高面のオニと鬼面のワニが退治する所作を演じ、顯國神社の若宮祭(7月)と例大祭(10月)に奉納。獅子頭は10kgの重量で迫力がある。
	顯國神社の三面獅子		道具整備費の一部として
島根県	イツモオヤシロキョウカミコガクラニシヒノホ 出雲大社教神代神楽 西 日登神楽社中	50	江戸末期創始とされる出雲神楽。一時衰退、S21年再開。S28年の出雲大社正遷宮以来毎年5月に欠かさず奉納。会員は学生から80代までと幅広い。オロチ伝説発祥の地で継承中。
	出雲神楽		衣装・蛇胴新調費の一部として
広島県	タクマジンダイカクラボゾノカイ 田熊神代神楽保存会	70	明治初期創始とされる神楽。田熊神社春祭に奉納。10演目を絶えることなく継承。舞は備中神楽系の特徴を持つ。八重垣で使用する大蛇は蛇腹ではなく古来のものを使用。舞も昔の姿をできるだけ正確に伝承。
	田熊神代神楽		衣装購入費の一部として
山口県	シモノセキヘイケオドリボゾノカイニシヤレン 下関平家踊保存会西山連	50	壇ノ浦で滅んだ平家一門を供養する踊りが原点。市内3団体で継承、S38年保存会結成。七七調の音頭・二上りの三味線、太鼓に空樽をバックに糸繰り式の踊りが加わり、速いテンポと歯切れ良いリズムが特徴。
	平家踊		道具整備費の一部として
徳島県	シツクイオンサイオノボゾノカイ 穴喰祇園祭お能保存会	45	京都・備後の鞆と並ぶ日本三祇園の一つ。八坂神社夏祭に大山鉾を曳き稚児舞3曲を本宮に奉納。能を原型とした獅子舞は稀有。板屋根に椎・檜の青柴を葺き丸太製車輪の山鉾は素朴で全国的にも珍しい。
	穴喰祇園祭の奉納舞		道具・衣装整備費の一部として
香川県	ハラシクミ 原獅子組	35	昭和初期創始の獅子舞。一時衰退、S30年代に獅子組結成し復活。S47～57年休止、S58年再開。山崎八幡神社秋祭に奉納。8年前に子供獅子を発足させ、参加の輪が広がった。S59年から家使い等も復活。
	山崎八幡神社奉納獅子舞		道具購入費の一部として
高知県	ウキツシマチクジラフネウタボゾノカイ 浮津西町鯨舟の唄保存会	50	江戸前期に紀州に赴き捕鯨漁法を学んだ際、併せて伝わった鯨舟唄。伝承していた西町青年団が解散、直後のS42年地元有志が保存会結成し継承。浮津八王子宮秋祭当日には40分かけて通しで唄う。
	鯨舟の唄		道具購入費の一部として
福岡県	マツエボゾノカイ 松会保存会	50	室町前期創始とされる松尾山のお田植祭。松尾三社神社神事として継承。氏子減で低迷、S46年保存会結成し復活。水留・畔塗・田打ち・代掻き・種蒔き・田植・色衆楽の6つで構成。楽打ちを残すのは当地のみ。
	松尾山のお田植祭		道具更新費の一部として
佐賀県	マタリウボゾノカイ 米多浮立保存会	50	戦国末期の雨乞浮立が江戸前期に当地に伝来。一時途絶え、S24年復活。老松神社秋季例大祭に五穀豊穰を感謝し2年に一度奉納。若者3人が日・月・星を表す天衡を被り舞う為、天衡舞浮立とも言う。
	米多浮立		浮立鉦購入費の一部として
長崎県	カガサカリウボゾノカイ 長坂浮立保存会	45	江戸後期創始で豊作や雨乞を願う神事として秋のおくんちに奉納。S45年保存会結成。S62年地元小の総合学習に採用。楽器・衣装や曲・踊りは古来の姿を残している。天保年間記銘の鉦を保有。
	長坂浮立		道具整備費の一部として
熊本県	エイノオチホクルボゾノカイ 永尾ちょぼくれ保存会	50	江戸時代に流行した街頭芸「ちょぼくれ」がS14年当地に伝わった。一時衰退、H28年保存会結成し継承。市伝統文化芸能まつりや市民文化祭に発表。木魚を叩きながらお経に節をつけて早口で謡う俗謡。
	永尾ちょぼくれ		道具購入費の一部として
熊本県	ヤナギヒュウタイコドリボゾノカイ 柳別府太鼓踊り保存会	20	江戸時代に踊られた雨乞に関わった伝承芸能で、地区の長男に伝承されてきた。水牛角兜を冠った頭、鹿角兜の脇、鍬形角兜のセキの役がありシヤグマを冠った鉦打ちの少年がそれぞれに付く。白髭神社大祭で奉納。
	柳別府の太鼓踊り		太鼓皮張替費の一部として

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
大分県	カヲカクホヅンカイ 宝楽保存会	50	江戸中期に筑後楽を宇土流の杖と使い合わせ伝えた宝楽。古文書に従い杖・コモシラ・笛を3地区が分担。S59年保存会結成し氏子全体で継承。元宮宝八幡宮秋祭に奉納。由緒が明らかで杖術の種類が多い。
	宝楽		道具購入費の一部として
宮崎県	ニチナンシタイヘイトリホマチカミホヅンカイ 日南市泰平踊本町組保存会	50	江戸時代から伝わる町民の盆踊りが、江戸中期に薩摩藩との和解を祝い、武家にも踊ることが許され侍と町民と一緒に踊る。踊りは武芸十八般をかたどった優雅さが漂い、毅然とした武士の気迫が偲ばれる踊り。
	泰平踊り		侍服装新調費の一部として
鹿児島県	オサキテントウケイノカンマイホヅンカイ 大崎伝統芸能神舞保存会	50	70年間途絶えていた神舞を町内の照日神社の解説書等を基にH22年復活。都萬神社秋祭に奉納。篝火に照らされた境内で太鼓・笛に合わせ10～15演目を行う。神社本殿と拝殿は国登録有形文化財。
	神舞		衣装道具補修費の一部として
沖縄県	ナグスクウシデークホヅンカイ 宮城ウシデーク保存会	70	400年前から沖縄本島と周辺離島に伝わるウシデーク。旧暦8月15日ジシチに女性だけで踊る。本節3曲と踊り節30節を継承。太鼓・扇で本節を踊り、小道具(四竹・扇・タオル・貫ち花)で踊り節を踊る初夏の予祝儀礼。
	宮城ウシデーク		道具衣装購入費の一部として

2. 民俗技術の部（伝統的製作技術・衣食住に関わる生活技術・伝統工芸を含む） 3件 110万円

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人		助成目的
	民俗文化財の名称		
宮城県	シロイソワシ クラフト	35	江戸初期創始とされる手漉き和紙。技法伝承者死後も技術を継承中。和紙を加工し紙衣・紙子・紙布として販売。原料の虎斑楮は特別に育てられ、国宝の修復や東大寺修二会等に使われる等希少性が高い。 備品購入費の一部として
	白石和紙 蔵富人		
	白石和紙の製紙技術		
福島県	エビネメントウケスキワシゾンセイ化ジキ	35	江戸初期創始の手漉き和紙技術。S63年途絶え、H10年保存会結成し再開。H29年から実行委員会形式で道具整備・修繕、後継者育成活動中。時間の経過と共に紙が白くなる「生紙(きがみ)」が特徴。 道具購入費の一部として
	海老根伝統手漉和紙保存整備事業実行委員会		
	海老根伝統手漉和紙製造技術		
和歌山県	ネゴノヌシヨウザンカイ	40	豊臣秀吉の根来攻め(1585)以来途絶えた根来塗の技法をH12年415年ぶりに復活。厚く堅牢な黒漆の下地に天然の辰砂を用いた鮮やかな朱色が特徴。自然な刷毛目で堅牢に優れている。 道具・原材料購入費の一部として
	根来塗曙山会		
	根来寺根来塗		

【ご参考】国指定・国選択重要無形民俗文化財に定められた助成先

令和2年1月に文部科学省(文化庁)が新たに重要無形民俗文化財に指定した6件のうち下記の3件10団体が、当財団がこれまでに行なった助成先から該当いたしました。

保存継承に関わってこられた地元関係者の皆様のお喜びは勿論ですが、当財団にとりましても、今年も引き続き助成先から選ばれた事はたいへん嬉しいニュースです。

区分	決定年月	文化財名称	保存団体	地域	助成年度
国指定	2020年1月	近江湖南のサンヤレ踊り	志那中サンヤレ踊り保存会	滋賀県 志那中町	2003年
国指定	2020年1月	因幡・但馬の麒麟獅子舞	秋里伝統文化を保存する会	鳥取県 鳥取市	2018年
			波津神社獅子舞保存会	鳥取県 鳥取市	2017年
			菖蒲神社麒麟獅子舞保存会	鳥取県 鳥取市	2015年
			服部神社獅子舞保存会	鳥取県 鳥取市	2014年
			向垣神社祭礼行事保存会	鳥取県 鳥取市	2010年
			賀露神社麒麟獅子舞保存会	鳥取県 鳥取市	2004年
			貴布禰神社麒麟獅子舞保存会	鳥取県 八頭郡八頭町	2003年
			芦津獅子舞保存会	鳥取県 八頭郡智頭町	1999年
国指定	2020年1月	感応楽	豊前感応楽保存会	福岡県 豊前市	2006年

以上

財団案内

財団の目的

明治安田クオリティオブライフ文化財団(理事長:関口憲一)は、音楽における人材育成ならびに地域の伝統文化の保存維持、および後継者育成に対する助成などをおこない、もって国民生活の質的向上ならびにわが国文化の発展に寄与することを目的としています。

【財団の概要】

名 称	公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団 The MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION
設 立	平成3年(1991年)6月10日
主務官庁	内閣府
基本財産	15億円
事業内容	・音楽分野における若手芸術家の人材育成に対する助成 ・民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・芸術文化活動に関する調査研究、出版物の刊行
事業計画	○クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成に対する助成 ・海外における音楽研修に対する助成 ・国内音楽学生に対する奨学援助 ○民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・地域の民俗芸能(含、民俗行事、民俗音楽)の保存維持、後継者育成のための助成 ・地域の民俗技術(含、伝統的製作技術、衣食住に関わる生活技術、伝統工芸)の保存維持、後継者育成のための助成
事業成果	これまでの累計助成状況(令和2年3月現在) ・音楽分野 524人 9億3,380万円 ・伝統文化分野 1,264件 6億4,797万円
主な出捐企業	明治安田生命保険相互会社